対策はこれだ！たまねぎのネギハモグリバエ被害の防ぎ方

概　要 Abstract

ねぎ類の葉身を加害するネギハモグリバエは、これまでたまねぎで問題となることはありませんでしたが、平成25年に突然空知、石狩、上川地方で多発しました。特に、葉身からりん茎に幼虫が侵入することで収穫物の品質が大きく低下して問題となっており、現在も被害は継続しています。

本成果では

①たまねぎほ場における本種の発生生態を明らかにしました。

②本種に対する効果的な薬剤を明らかにし、りん茎被害抑制のための防除体系を示しました。

成虫と成虫食痕

りん茎被害

葉身被害(6月)

葉身被害(8月)

成　果 Results

【たまねぎほ場における発生生態】

・たまねぎほ場で本種が越冬することを確認。

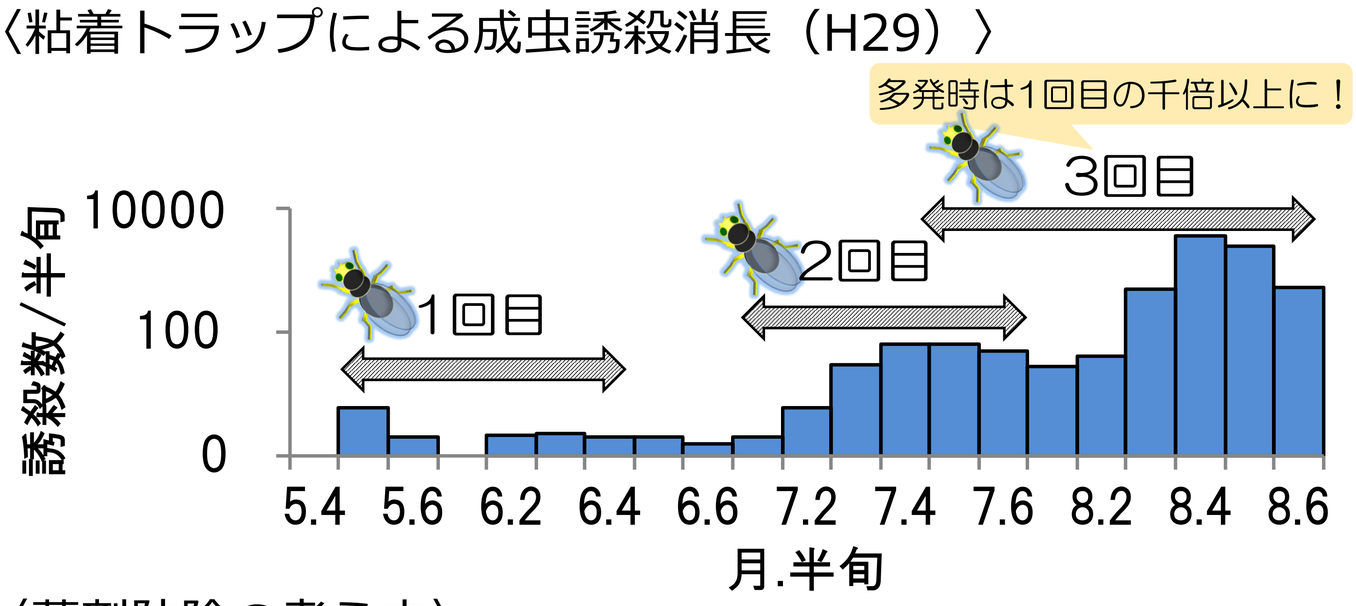
・成虫の発生時期

1回目：5月中旬～6月中旬

2回目：7月上旬～下旬

3回目：7月下旬～8月下旬

〈粘着トラップによる成虫誘殺消長（H29）〉



【りん茎被害抑制のための防除体系】

①1回目発生期

ほ場を観察し、成虫もしくは食痕が認められた場合に防除を実施。

②2回目発生期：ネギアザミウマ防除期

ネギアザミウマ防除実施時に、ネギハモグリバエにも効果のある薬剤を選択。

③重点防除時期

8月上旬に2回防除を実施。

〈薬剤防除の考え方〉

月		5		6			7			8		
旬		中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
薬剤防除	りん茎被害									③重点 シアントラニリプロール剤 →チオシクラム剤		
	密度低減	①発生が認められた場合 チオシクラム剤 シアントラニリプロール剤					②アザミウマと同時 スピネトラム剤 チオシクラム剤					
たまねぎ生育経過										倒伏	枯葉	

普　及 Dissemination

・内容は道央地帯の発生地で春播き移植栽培の主力品種（早晩性「早の晩」・「中の早」）を用いた試験結果に基づきます。

連絡先 Contact

中央農業試験場 病虫部 予察診断グループ
０１２３－８９－２００１
central-agri@hro.or.jp